学位論文内容の要旨

愛知学院大学

論文提出者名	古川　絵理華　（心身科学研究科健康科学専攻　博士後期課程）
論　文　題　名	大学歯科健診後の口腔の健康に対する関心と自覚症状 －歯科健診を実施しているＡ大学での調査－

（論文内容の要旨）

【背景】

大学では歯科健診が法的に義務づけられていないため，歯科健診を実施している大学はごくわずかに留まっている．したがって，大学生の口腔の健康状態に関する報告は少なく，大学における歯科健診の有用性について評価を行った研究はほとんど見られない．特に，集団歯科健診の影響について追跡調査をおこなった報告は限られている．そこで，本研究ではＡ大学の学生における集団歯科健診結果の告知とその後の口腔の健康に対する関心および自覚症状との関連を検討した．

【目的】

本研究の目的は，大学生に対する集団歯科健診と歯科衛生教育を実施することの意義および有用性を検証するための基礎資料を得ることである．

【対象および方法】

A 大学健康科学系学科に 2012 年および 2013 年に在籍した 1 年生で，大学内での集団歯科健診を受診し，2 か月後の質問票調査に回答した 293 名を対象として，歯科健診結果と口腔の健康に対する関心および自覚症状との関連，健診後の歯科受診状況を調査した．

【結果】

健診所見で多かったのは，歯垢（34.8%），CO（31.1%），歯肉炎／歯周炎（30.4%）であった．関心は，むし歯（36.5%），親知らず（31.7%），自覚症状は，歯がしみる（57.2%），歯肉出血（55.3%），歯痛（42.3%）が多かった．齲蝕や要観察歯の有所見は，むし歯への関心（オッズ比は齲蝕 3.05；要観察歯 3.06）や歯痛（オッズ比は齲蝕 2.27；要観察歯 2.07）との関連が強かった．歯肉炎／歯周炎の有所見は歯肉腫脹との関連があった（オッズ比 1.83）．しかし，齲蝕や要観察歯の有所見は歯肉炎や歯周病への関心と歯肉出血とは関連がなかった．歯列／咬合／顎関節の有所見は，歯並び（オッズ比 2.81），かみ合わせ（オッズ比 3.23），顎の音や痛み（オッズ比 3.14）への関心や顎関節音（オッズ比 2.17）と関連が強かった．歯科健診後の 2 か月間の歯科受診行動と齲蝕（オッズ比 3.74）や歯肉の異

常（オッズ比 2.67）は関連していたが，実際の歯科受診率は 13.7%に留まった.

【結論】

健診で有所見でも受診行動には必ずしもつながっていない．特に歯肉炎／歯周炎は関心が低く，自覚症状との関連も強くない．大学生以降の齲蝕や歯周病の急増に歯止めをかけるために，大学生にも歯科健診と充実した事後措置に加え，歯科衛生教育が必要と考えられる.